

RS-232C/LAN 変換アダプタ BLC-100

セッティング マニュアル

**Bits
Lan
Converter**

本製品を正しくご利用いただくために
この説明書をよくお読みください。
また、お読みになりました後もすぐ取り出せる
場所に保管して、必要なときにご活用ください。

 株式会社 **ビットツ**

はじめに

このたびは RS-232C/LAN 変換アダプタ「BLC-100」をお求めいただき、誠にありがとうございます。

本書は RS-232C/LAN 変換アダプタの動作に必要な各種パラメータ「動作パラメータ」のセットアップ、ユーザプログラムのダウンロードの方法について説明しています。

本書は BLC-100 を対象とします。本書では、説明のため「本製品」と称します。

本製品の仕様ならびに外観、各部名称などは取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- ・ 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられております。
- ・ 本書に記載された内容は予告なく変更する場合があります。
- ・ 本書の内容については万全を期していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたら弊社営業までご一報ください。
- ・ 弊社では、製品の運用を理由とする損失、逸失利益などの請求につきましては、本書の不審点や誤り、記載漏れなどに関わらず、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ 本書に記載される会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

目 次

安全に使用するための注意事項	1
使用中に異常が発生したら	1
取扱上の注意	1
1. 概要	2
2. 動作モードの選択	2
3. 動作パラメータ	3
3.1 LAN設定	6
3.2 シリアル設定	9
3.3 システム設定	10
3.4 DTEサーバ、DCEクライアントパラメータ	11
4. 動作パラメータ設定方法	19
4.1 シリアルインタフェースからの設定	19
4.2 TELNETからの設定	19
4.3 FTPからの設定	20
5. ダウンロード方法	23
5.1 FTPクライアントからのダウンロード	23
5.2 シリアルインタフェースからのダウンロード	23
6. 設定メニュー	24
6.1 操作方法	24
6.2 トップメニュー	24
6.3 LAN設定メニュー	25
6.4 シリアル設定メニュー	29
6.5 システム設定メニュー	31
6.6 端末設定メニュー	33
6.7 設定ファイルメニュー	45
6.8 プログラムダウンロード	46
6.9 プログラム一覧	46
7. 注意事項・制限事項	46
8. シリアルクロスケーブル接続について	47
アフターサービスについて	48

安全に使用するための注意事項



警告

下記の事項を必ず守って使用してください。

- ・ ケーブルを接続するときは、本体もしくは、周辺機器側の電源プラグを AC コンセントから抜いてください。AC コンセントに接続している機器があると、思わぬ所から電流が流れ感電する可能性があります。
- ・ 電源は正しい電源を使用してください。異なる電圧で使用しますと、感電、発煙、火災などの原因となります。
- ・ お客様による改造、修理などは絶対にしないでください。故障の原因となります。

使用中に異常が発生したら



警告

下記のような状態になりましたら、火災・感電の原因となります。すぐに機器のプラグをACコンセントから抜き、販売店または弊社営業まで修理を依頼してください。

- ・ 煙が出る、変な臭いがするなどの異常状態のときは、すぐに使用をやめてください。
- ・ 異物が入ったり水などがかかったら、すぐに使用をやめてください。
- ・ 手で触れなくなるほど熱くなっていたら、すぐに使用をやめてください。

取扱上の注意

- ・ 落としたり堅いものにぶつけるなどして強い衝撃を与えないでください。
- ・ 静電気は本製品の故障の原因となることがあります。静電気による損傷を防ぐため、本製品の設置時や設定時などで本製品に触れる場合は、身近な金属（アルミサッシやドアノブなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

1. 概要

本製品の使用に際しては、動作に必要な IP アドレスなど各種動作パラメータを設定する必要があります。また、必要に応じてユーザプログラムをダウンロードして動作させることができます。本製品ではこれら設定ないしダウンロードをシリアルインタフェースから行う方法、TELNET から行う方法、FTP から行う方法の 3 種類を用意しています。

2. 動作モードの選択

動作モードには以下のモードがあり、本製品の電源投入後、モードスイッチ（ロータリスイッチ）の設定状態を読み、本装置の動作を決定します。

本書では、「設定モード」について説明します。

設定	動作モード	機 能
0	通常動作モード	動作パラメータにて指定されたプログラムが動作します
1	DTE サーバモード	DTE サーバを起動します
2	DCE クライアントモード	DCE クライアントを起動します
3	設定禁止	
4		
5		
6		
7	設定モード	動作パラメータの設定およびユーザプログラムのダウンロード

！注意！

- ・モードスイッチは電源投入時の設定状態が有効になります。従って通電中に変更しても動作モードは変わりません。設定変更後は、本製品の電源を再投入するかリセットしてください。
- ・モードスイッチを設定禁止の状態にしないでください。

3. 動作パラメータ

動作パラメータは以下の項目があります。

標準パラメータ

	項 目 名	項目名称	初期値	DTE サーバ、 DCE クライアント
LAN 設定	自 IP アドレス	11 Own IP	192.168.200.254	使用
	自ポート番号	12 Own Port	257	使用
	宛先 IP アドレス	13 Dest IP	2.2.2.2	使用(クライアント時)
	宛先ポート番号	14 Dest Port	514	使用(クライアント時)
	デフォルトゲートウェイ	15 GateWay	2.2.2.2	設定有効
	サブネットマスク	16 Subnet	255.255.255.0	設定有効
	コネクタイマ	17 Connect Timer	2	設定有効
	クライアント接続契機	18 Client Connect	AUTO(1)	使用(クライアント時)
	無通信監視タイマ	19 Keep Alive Timer	0	設定有効
	ユーザ名	1A User Name	""	未使用
	パスワード	1B Pass Word	""	未使用
	ファイルターミネータ	1C File Terminator	0.0.0	未使用
	BOOTP 設定	1D BOOTP	無効(0)	設定有効
	DHCP 設定	1E DHCP	無効(0)	設定有効
	オートネゴシエーション	1F Auto Negotiation	AUTO(0)	設定有効
シリアル 設定	通信速度	21 Baud Rate	9600	使用
	データ長	22 DataLen	8	使用
	パリティ	23 Parity	なし(N)	使用
	ストップビット長	24 StopBit	1	使用
	フロー制御	25 Flow	なし(0)	未使用
	レコードターミネータ	26 Record Terminator	0.0.0	未使用
システム 設定	起動プログラム 1	31 Program1	""	未使用
	起動プログラム 2	32 Program2	""	未使用
	起動プログラム 3	33 Program3	""	未使用
	起動プログラム 4	34 Program4	""	未使用
	起動プログラム 5	35 Program5	""	未使用
	LAN デフォルトプロトコル	3H LAN Default	SockSv	未使用
	RS デフォルトプロトコル	3J RS Default	Serial	未使用

DTE サーバ、DCE クライアントパラメータ
DTE サーバ、DCE クライアントモードにて使用

設定項目		項目名称	設定値内容	初期値
バッファ制御				
1	送信バッファ容量	411 SD Buff Size	0 : 1byte 1 : 32kbyte	1
2	送信バッファハードフロータイマ	412 SD Flow TimerH	0 : タイマ無効 1~255 秒	0
3	送信バッファソフトフロータイマ	413 SD Flow TimerS	0 : タイマ無効 1~255 秒	0
4	受信バッファ容量	414 RD Buff Size	0 : 1byte 1 : 32kbyte	1
5	受信バッファハードフロータイマ	415 RD Flow TimerH	0 : タイマ無効 1~255 秒	0
6	受信バッファソフトフロータイマ	416 RD Flow TimerS	0 : タイマ無効 1~255 秒	0
RS 制御				
1	LAN I/F 制御 1	421 RS In Control	0 : LAN 送信フロー制御なし 1 : LAN 送信フロー制御あり	0
2	LAN I/F 制御 2	422 RS In Select	0 : LAN 受信データを RS-232C に出力 1 : 通常 ON、コネクション切断または LAN バッファが一杯にて OFF を出力 2 : 0、1 の両方を有効	0
3	RS-232C I/F 制御	423 RS Out Control	0 : APL からの RS 信号データをそのまま出力 1 : RS-232C 受信フロー制御 2 : 0、1 の両方を有効 3 : ON 固定	0
CS 制御				
1	RS-232C I/F 制御	424 CS In Control	0 : そのまま APL へ出力 1 : RS-232C 送信フロー制御 2 : 1、2 の両方を有効	0
2	LAN I/F 制御	425 CS Out Control	0 : RS-232C からそのまま出力 1 : LAN 受信フロー制御 2 : 0、1 の両方を有効 3 : ON 固定	0
ER 制御				
1	ER ハードリセット	431 ER Reset	0 : なし 1 : あり (LAN 受信によりハードリセット)	0
2	LAN I/F 制御 1	432 ER In Control	0 : バッファクリアなし 1 : 送信バッファクリア 2 : 受信バッファクリア 3 : 送信、受信バッファクリア	0
3	LAN I/F 制御 2	433 ER In Select	0 : LAN 受信データを RS-232C に出力 1 : 通常 ON コネクション切断時 OFF を出力 2 : 0、1 の両方を有効	0
4	RS-232C I/F 制御	434 ER Out Control	0 : APL からそのまま出力 1 : ON 固定	0

設定項目		項目名称	設定値内容	初期値
DR 制御				
1	DR ハードリセット	435 DR Reset	0 : なし 1 : あり (DR 信号によってハードリセット)	0
2	232C I/F 制御	436 DR In Control	0 : パッファクリアなし 1 : 送信パッファクリア 2 : 受信パッファクリア 3 : 送信、受信パッファのクリア	0
3	LAN I/F 制御	437 DR Out Control	0 : RS-232C からそのまま出力 1 : ON 固定	0
CD 制御				
1	CD 出力	438 CD Out Control	0 : 入力をそのまま出力 1 : LAN のコネクションにより出力 (RS-232C 出力時のみ有効) 2 : ON 固定 3 : コネクション切断時 OFF、接続時 LAN データ	0
CI 制御				
1	CI 出力	439 CI Out Control	0 : 入力をそのまま出力 1 : OFF 固定 2 : コネクション切断時 OFF、接続時 LAN データ	0
ソフトウェアフロー制御				
1	フロー出力制御	441 Flow Out Select	0 : APL からの RS 信号状態 1 : RS-232C パッファ状態 2 : 0、1 両方を有効 3 : ON 固定	3
2	フローコード出力	442 Flow Out Control	0 : フローコード出力後、送信パッファ出力 1 : 送信パッファ出力後、フロー制御コード出力	0
3	CS ON/OFF データ制御 元選択	443 Flow CS Select	0 : フローコードを受信 1 : 0、2 の両方 2 : RS-232C CS 信号	2
4	フローコードデータ処理	444 Flow In Select	0 : フローコードをそのままデータとして扱う 1 : フローコードを破棄	0
5	フロー処理	445 Flow Timing	0 : フロー処理はパッファ空にて行う 1 : フロー処理をすぐ行う	1
6	XON コード	446 Xon Code	0-255	17(0x11)
7	XOFF コード	447 Xoff Code	0-255	19(0x13)
ブレイク信号制御				
1	LAN 受信ブレイクの出力	451 Break Lan Select	0 : 出力しない 1 : 送信パッファの後ろにブレイク信号付加 2 : ブレイク信号出力後、送信パッファ出力	0
2	LAN 受信ブレイク制御	452 Break Lan Control	0 : パッファクリアなし 1 : 送信パッファのクリア 2 : 受信パッファのクリア 3 : 送信、受信パッファのクリア	0
3	RS-232C 受信ブレイクの出力	453 Break Rs Select	0 : 出力しない 1 : 受信パッファの後ろにブレイク信号付加 2 : ブレイク信号出力後、受信パッファ出力	0
4	RS-232C 受信ブレイク制御	454 Break Rs Control	0 : パッファクリアなし 1 : 送信パッファのクリア 2 : 受信パッファのクリア 3 : 送信、受信パッファのクリア	0
5	出力ブレイク信号長	455 Break Len	1 ~ 255 (10ms 単位)	1

3.1 LAN 設定

LAN 側の動作に必要なパラメータを設定します。

自 IP アドレス

本製品の IP アドレスを設定します。

設定フォーマットは [999.999.999.999] で、設定範囲は [999 がそれぞれ 0 ~ 255 の 10 進データ] です。ただし [0.0.0.0] [255.255.255.255] は設定できません。

自ポート番号

本製品のポート番号を設定します。ソケットサーバのリッスンポート番号です。

設定フォーマットは [99999] で、設定範囲は [0 ~ 65535 の 10 進データ] です。

ウェルノウンポート番号 (0 ~ 255) 以外を推奨します。

ウェルノウンポート番号とは、各プロトコルごとにあらかじめ定められているポート番号です。

宛先 IP アドレス

宛先 IP アドレスを設定します。このアドレスはソケットクライアントが参照します。

設定フォーマットは [999.999.999.999] で、設定範囲は [999 がそれぞれ 0 ~ 255 の 10 進データ] です。ただし [0.0.0.0] [255.255.255.255] は設定できません。

宛先ポート番号

宛先ポート番号を設定します。このポート番号はソケットクライアントが参照します。

設定フォーマットは [99999] で、設定範囲は [0 ~ 65535 の 10 進データ] です。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。

設定フォーマットは [999.999.999.999] で、設定範囲は [999 がそれぞれ 0 ~ 255 の 10 進データ] です。ただし [0.0.0.0] [255.255.255.255] は設定できません。

サブネットマスク

サブネットマスクの値を設定します。

設定フォーマットは [999.999.999.999] で、設定範囲は [999 がそれぞれ 0 ~ 255 の 10 進データ] です。

デフォルトゲートウェイ IP アドレス、サブネットマスクとの関係を以下に示します。

接続要求時に宛先 IP アドレスと自 IP アドレスを、それぞれサブネットマスクで AND をとり比較します。

比較した結果が一致すれば、宛先 IP アドレスがその物理ネットワークに存在すると判断して、宛先 IP アドレスに接続します。

一致しなければ宛先 IP アドレスは他のネットワークに存在すると判断して、デフォルトゲートウェイに接続します。

コネクトタイマ

ソケットでコネクトするときのタイムアウト時間を秒単位で設定します。

設定フォーマットは [999] で、設定範囲は [2 ~ 120 の 10 進データ] です。

クライアント接続契機

この設定はソケットクライアントのとき参照します。

設定範囲は [0 (MANUAL) または 1 (AUTO)] です。

値が 0 の場合、ソケットから出力するデータがあるときにコネクトします。DCE クライアントモードでは、DR 信号 ON にてコネクトします。

値が 1 の場合、起動すると直ちにコネクトし、接続が切れると自動的に再接続します。

無通信監視タイマ

ソケットが接続されたあと、データの送受信がないときに、接続相手の存在確認のパケット (Keep-Alive パケット) を送信する間隔を秒単位で設定します。

設定フォーマットは [999] で、設定範囲は [0 ~ 240 の 10 進データ] です。

値が 0 の場合、Keep-Alive パケットを送信しません。

7 回連続して Keep-Alive パケットに対する応答がないと接続を切断します。

ソケットクライアント動作時は、設定された秒数の間にデータの転送がないと接続を切断します。

ユーザ名

ログインユーザ名を設定します。この設定は FTP サーバと TELNET サーバが参照します。

設定範囲は [半角 15 文字までの文字列データ] です。アルファベットの大文字と小文字は区別します。

パスワード

ログインパスワードを設定します。この設定は FTP サーバと TELNET サーバが参照します。

設定範囲は [半角 15 文字までの文字列データ] です。アルファベットの大文字と小文字は区別します。

フィルターミネータ

ファイルの区切り文字を設定します。この設定は FTP サーバが参照します。

設定フォーマットは [9,XX,XX] で、設定範囲は [9 が 0 ~ 2、XX がそれぞれ 00 ~ FF の 16 進データ] です。

先頭の値が 0 の場合、バッファに存在するすべてのデータを 1 つのファイルとみなします。

先頭の値が 1 の場合、次の XX の値と一致する文字コードをファイルの区切り文字とみなします。

先頭の値が 2 の場合、連続する 2 文字の文字コードが XX,XX の値と一致するときにファイルの区切りとみなします。

BOOTP 設定

BOOTP の使用の有無を設定します。

設定範囲は [0 (無効) または 1 (有効)] です。

設定が有効の場合、起動時に BOOTP リクエストを発行して IP アドレスを取得します。アドレスが取得できなかった場合は、設定されている IP アドレスでそのまま動作します。

DHCP 設定

DHCP の使用の有無を設定します。

設定範囲は [0 (無効) または 1 (有効)] です。

設定が有効の場合、起動時に DHCP リクエストを発行して IP アドレスを取得します。アドレスが取得できなかった場合は、設定されている IP アドレスでそのまま動作します。

オートネゴシエーション設定

オートネゴシエーションの有無を設定します。

設定範囲は [0 (自動) または 1 (100M 固定) または 2 (10M 固定)] です。

本設定項目は、シリアルインタフェースまたは TELNET からのみ設定可能です。FTP からは設定値の参照・変更はできません。

3.2 シリアル設定

シリアルインタフェースの通信パラメータを設定します。

ボーレート～フロー制御

選択の種類は以下に示すとおりです。

項目名称	設定内容	設定値
ボーレート	921,600bps	921600
	614,400bps	614400
	460,800bps	460800
	230,400bps	230400
	115,200bps	115200
	57,600bps	57600
	38,400bps	38400
	19,200bps	19200
	9,600bps	9600
	4,800bps	4800
	2,400bps	2400
	1,200bps	1200
	300bps	300
	110bps	110
データ長	7bit	7
	8bit	8
パリティ	なし	N
	偶数	E
	奇数	O
ストップビット長	1bit	1
	2bit	2
フロー制御	なし	0
	RS/CS	1
	XON/XOFF	2

レコードターミネータ

レコードの区切り文字を設定します。

設定フォーマットは[9,XX,XX]で、設定範囲は[9 が 0～2、XX がそれぞれ 00～FF の 16 進データ]です。

先頭の値が 0 の場合、レコードの区切りはないものとみなします。

先頭の値が 1 の場合、次の XX の値と一致する文字コードをレコードの区切り文字とみなします。

先頭の値が 2 の場合、連続する 2 文字の文字コードが XX,XX の値と一致するときにレコードの区切りとみなします。

3.3 システム設定

通常動作モードで動作させるプログラム名を設定します。

起動プログラム名 1~5

通常動作モードで動作させるプログラム名を、システム組込み済みプログラム、ユーザプログラムの中から選択して設定します。

設定範囲は [半角 12 文字までの文字列データ] です。アルファベットの大文字と小文字は区別します。

LAN デフォルトプロトコル名

起動プログラム名 1~5 の設定がすべて無効の場合に起動される、LAN 側のプログラム名を設定します。

設定範囲は [半角 12 文字までの文字列データ] です。アルファベットの大文字と小文字は区別します。

RS デフォルトプロトコル名

起動プログラム名 1~5 の設定がすべて無効の場合に起動される、シリアルインタフェース側のプログラム名を設定します。

設定範囲は [半角 12 文字までの文字列データ] です。アルファベットの大文字と小文字は区別します。

3.4 DTE サーバ、DCE クライアントパラメータ

DTE サーバおよび DCE クライアントにて使用するパラメータを設定します。

3.4.1 バッファ制御

送信バッファ容量

RS-232C 送信バッファのサイズを指定します。

設定範囲は [0 (1byte) または 1 (32kbyte)] です。

値が 0 の場合、バッファサイズは 1byte に設定されます。

値が 1 の場合、バッファサイズは 32kbyte に設定されます。

送信バッファハードフロータイマ

RS-232C 送信バッファにおいてハードフロー制御が一定時間続いた場合の、バッファクリアを行うまでの時間を秒単位で設定します。

設定フォーマットは [999] で、設定範囲は [0 ~ 255 の 10 進データ] です。

値が 0 の場合、タイマは無効となります。

送信バッファソフトフロータイマ

RS-232C 送信バッファにおいてソフトフロー制御が一定時間続いた場合の、バッファクリアを行うまでの時間を秒単位で設定します。

設定フォーマットは [999] で、設定範囲は [0 ~ 255 の 10 進データ] です。

値が 0 の場合、タイマは無効となります。

受信バッファ容量

RS-232C 受信バッファのサイズを指定します。

設定範囲は [0 (1byte) または 1 (32kbyte)] です。

値が 0 の場合、バッファサイズは 1byte に設定されます。

値が 1 の場合、バッファサイズは 32kbyte に設定されます。

受信バッファハードフロータイマ

受信バッファソフトフロータイマ

RS-232C 受信バッファにおいて LAN 側から RS 信号 OFF とされた状態が一定時間続いた場合の、バッファクリアを行うまでの時間を秒単位で設定します。

設定フォーマットは [999] で、設定範囲は [0 ~ 255 の 10 進データ] です。

値が 0 の場合、タイマは無効となります。

3.4.2 RS 制御

RS LAN I/F 制御 1

LAN 送信フロー制御の有無を設定します。LAN 側の RS 信号データを設定に従って処理します。

設定範囲は [0 (無効) または 1 (有効)] です。

値が 0 の場合、LAN 送信フロー制御は無効となります。

値が 1 の場合、LAN 送信フロー制御は有効となります。

RS 信号データが ON となると RS-232C からの受信および LAN 送信バッファへのデータセットを再開します。

RS 信号データが OFF となると RS-232C からの受信データ読み込みおよび LAN 送信バッファへのデータセットを止めます。ただし、既に LAN 送信バッファにセットされたデータは送信されます。(MAX 4096byte)

RS LAN I/F 制御 2

LAN 側から受信した RS 信号データの出力方法を設定します。

設定範囲は [0 , 1 , 2] です。

値が 0 の場合、LAN 側からの RS 信号データを RS-232C にそのまま出力します。ただし、コネクション切断時は最終状態を出力します。

値が 1 の場合、RS 信号は通常 ON 固定となります。ただし、コネクション切断時または LAN 送信バッファが一杯になった場合は OFF を出力します。

値が 2 の場合、通常 LAN 側からの RS 信号データを RS-232C にそのまま出力します。LAN 側からの RS 信号データが OFF の場合、コネクション切断時または LAN 送信バッファが一杯になった場合は OFF を出力します。

RS RS-232C I/F 制御

RS-232C 側への RS 信号出力を設定に従って処理します。

設定範囲は [0 , 1 , 2 , 3] です。

値が 0 の場合、LAN 側からの RS 信号データをそのまま RS-232C 制御線へ出力します。

値が 1 の場合、RS-232C 受信フロー制御となります。RS-232C 受信バッファ状態 (受信バッファ残量 20% でフロー制御 (RS OFF)、80% でフロー解除 (RS ON)) により制御します。従って RS-232C 受信バッファが 1 バイト設定時は、バッファに 1 バイト受信 RS OFF 出力、バッファから 1 バイト読み出し RS ON 出力となります。

値が 2 の場合、通常 LAN 側からの RS 信号データをそのまま RS-232C 制御線へ出力します。LAN 側からの RS 信号データ、受信バッファ残量状態のいずれかが OFF の場合、RS OFF 出力します。

値が 3 の場合、RS 信号は ON 固定となり、RS-232C 制御線へ出力します。

3.4.3 CS 制御

CS RS-232C I/F 制御

RS-232C 側からの CS 信号を設定に従って処理します。

設定範囲は [0 , 1 , 2] です。

値が 0 の場合、CS 信号をそのまま LAN 側へ出力します。

値が 1 の場合、RS-232C 送信フロー制御となります。LAN 受信データを RS-232C に送信するのをやめます。

値が 2 の場合、LAN 側に CS 信号 ON/OFF データを出力します。同時に RS-232C フロー制御を行います。

CS 信号は CS 制御元設定によって RS-232C CS 信号をそのまま使用するか、XON (CS ON) /XOFF (CS OFF) を使用するかが切り換えられます。

CS LAN I/F 制御

LAN 側の CS 信号データを設定に従って処理します。

設定範囲は [0 , 1 , 2 , 3] です。

値が 0 の場合、CS 信号を LAN 側へそのまま出力します。

値が 1 の場合、LAN 受信フロー制御となります。RS-232C 送信バッファ状態 (送信バッファ残量 20% でフロー制御 (CS OFF) 80% でフロー解除 (CS ON)) により制御します。

値が 2 の場合、通常 CS 信号を LAN 側へそのまま出力します。CS 信号、送信バッファ残量状態のいずれか OFF の場合、LAN 側へ OFF を出力します。

値が 3 の場合、CS 信号は ON 固定となり、LAN 側へ出力します。

3.4.4 ER 制御

ER ハードリセット

LAN 側の ER 信号データにてハードウェアリセットを行います。

設定範囲は [0 (無効) または 1 (有効)] です。

値が 0 の場合、ハードリセットは無効となります。

値が 1 の場合、ハードリセットは有効となります。ER 信号データを RS-232C 制御線へ出力後、コネクションをリセットし (RST パケット送信) ハードリセットを行います。

ER LAN I/F 制御 1

LAN 側からの ER 信号データが OFF の場合、設定に従って RS-232C のバッファクリアを行います。

設定範囲は [0 , 1 , 2 , 3] です。

値が 0 の場合、バッファクリアなしとなります。

値が 1 の場合、RS-232C 送信バッファをクリアします。

値が 2 の場合、RS-232C 受信バッファをクリアします。

値が 3 の場合、RS-232C 送受信バッファをクリアします。

ER LAN I/F 制御 2

LAN 側からの ER 信号データを設定に従って処理します。

設定範囲は [0 , 1 , 2] です。

値が 0 の場合、LAN 側からの ER 信号データをそのまま RS-232C 制御線へ出力します。

値が 1 の場合、ER 信号は ON 固定となり、RS-232C 制御線へ出力します。ただし、コネクションが切断された場合は OFF を出力します。

値が 2 の場合、通常 LAN 側からの ER 信号データをそのまま RS-232C 制御線へ出力します。LAN 側からの ER 信号データ OFF、コネクション切断のいずれかにより ER 信号 OFF を出力します。

ER RS-232C I/F 制御

RS-232C 側への ER 信号出力を設定に従って処理します。

設定範囲は [0 , 1] です。

値が 0 の場合、LAN 側からの ER 信号データをそのまま RS-232C 制御線へ出力します。

値が 1 の場合、ER 信号は ON 固定となり、RS-232C 制御線へ出力します。

3.4.5 DR 制御

DR ハードリセット

RS-232C 側の DR 信号にてハードウェアリセットを行います。

設定範囲は [0 (無効) または 1 (有効)] です。

値が 0 の場合、ハードリセットは無効となります。

値が 1 の場合、ハードリセットは有効となります。コネクションが接続状態であれば、DR OFF 検出によって DR 信号データを LAN 側へ送信後、コネクションをリセットします。(RST パケット送信)

DR RS-232C I/F 制御

RS-232C 側の DR 信号が OFF に変化すると、設定に従って RS-232C のバッファクリアを行います。

設定範囲は [0 , 1 , 2 , 3] です。

値が 0 の場合、バッファクリアなしとなります。

値が 1 の場合、RS-232C 送信バッファをクリアします。

値が 2 の場合、RS-232C 受信バッファをクリアします。

値が 3 の場合、RS-232C 送受信バッファをクリアします。

DR LAN I/F 制御

LAN 側の DR 信号データを設定に従って処理します。

設定範囲は [0 , 1] です。

値が 0 の場合、DR 信号をそのまま LAN 側へ出力します。

値が 1 の場合、DR 信号は ON 固定となり、LAN 側へ出力します。

3.4.6 CD 制御

CD 出力

RS-232C 側の CD 信号、LAN 側からの CD 信号データを設定に従って処理します。DTE/DCE モードによって信号方向を決定します。

設定範囲は [0 , 1 , 2 , 3] です。

値が 0 の場合、入力をそのまま出力します。ただし、コネクション切断時は最終状態を出力します。

値が 1 の場合、LAN のコネクションにより出力を行います。(RS-232C 出力時のみ有効となります。)

値が 2 の場合、ON 固定となります。

値が 3 の場合、コネクション切断時は RS-232C 制御線へ CD 信号 OFF を出力します。コネクション接続時は LAN 側からの CD 信号データをそのまま RS-232C 制御線へ出力します。(RS-232C 出力時のみ有効となります。)

3.4.7 CI 制御

CI 出力

RS-232C 側の CI 信号、LAN 側からの CI 信号データを設定に従って処理します。DTE/DCE モードによって信号方向を決定します。

設定範囲は [0 , 1 , 2] です。

値が 0 の場合、入力をそのまま出力します。ただし、コネクション切断時は最終状態を出力します。

値が 1 の場合、OFF 固定となります。

値が 2 の場合、コネクション切断時は OFF 出力します。コネクション接続時は LAN からの入力をそのまま出力します。

3.4.8 ソフトウェアフロー制御

フロー出力制御

ソフトウェアフロー出力の制御元を選択します。

設定範囲は [0 , 1 , 2 , 3] です。

値が 0 の場合、LAN 側からの RS 信号データを使用します。

値が 1 の場合、RS-232C 受信フロー制御データを使用します。RS-232C 受信バッファ状態(受信バッファ残量 20% でフロー制御 (RS OFF)、80% でフロー解除 (RS ON)) により制御します。従って RS-232C 受信バッファが 1 バイト設定時は、バッファに 1 バイト受信 RS OFF 出力、バッファから 1 バイト読み出し RS ON 出力となります。

値が 2 の場合、LAN 側からの RS 信号データ、受信バッファ残量のいずれかが OFF の場合 OFF として、その他は ON として使用します。

値が 3 の場合、ON 固定となります。

フローコード出力

前項 (フロー出力制御) から RS 信号データの出力 (変化) があった場合、設定に従って処理します。

設定範囲は [0 , 1] です。

値が 0 の場合、フローコード出力後、RS-232C 送信データを出力します。

値が 1 の場合、RS-232C 送信データが空になったらフローコードを出力します。

CS ON/OFF データ制御元選択

CS 制御線の ON/OFF データ制御元を選択します。

設定範囲は [0 , 1 , 2] です。

値が 0 の場合、RS-232C CS 信号入力にかかわらず、XON で CS ON とし、XOFF で CS OFF とします。

値が 1 の場合、XON かつ RS-232C CS 信号 ON で CS ON とし、その他は CS OFF とします。

値が 2 の場合、RS-232C CS 信号入力をそのまま使用します。

フローコードデータ処理

フローコードをデータとして扱うか否かを設定します。

設定範囲は [0 , 1] です。

値が 0 の場合、フローコードをそのままデータとして扱います。

値が 1 の場合、フローコードデータを破棄します。

フロー処理

フローの処理方法を設定します。

設定範囲は [0 , 1] です。

値が 0 の場合、フロー処理は受信バッファが空になるまで行いません。

値が 1 の場合、フロー処理をすぐに行います。

XON/XOFF コード

XON/XOFF フローコードの値を設定します。

設定フォーマットは [999] で、設定範囲は [0 ~ 255 の 10 進データ] です。

3.4.9 ブレーク信号制御

LAN 受信ブレークの出力

LAN 側にてブレーク信号を検出した場合の処理方法を設定します。

設定範囲は [0 , 1 , 2] です。

値が 0 の場合、RS-232C 側へのブレーク信号出力は行いません。

値が 1 の場合、RS-232C 送信バッファの後ろにブレーク信号を付加します。その際、RS-232C データ送信バッファが空となるまでの間は、新たに LAN 側からのデータの読み出しは行いません。

値が 2 の場合、RS-232C 側へブレーク信号出力後、RS-232C 送信バッファのデータを出力します。

LAN 受信ブレークの出力が 1 または 2 に設定されていて、次項 (LAN 受信ブレーク制御) でバッファクリアが設定されている場合は、バッファクリアした後にブレーク信号を出力します。

LAN 受信ブレーク制御

LAN 側にてブレーク信号を検出した場合、設定に従って RS-232C のバッファクリアを行います。

設定範囲は [0 , 1 , 2 , 3] です。

値が 0 の場合、バッファクリアなしとなります。

値が 1 の場合、RS-232C 送信バッファをクリアします。

値が 2 の場合、RS-232C 受信バッファをクリアします。

値が 3 の場合、RS-232C 送受信バッファをクリアします。

RS-232C 受信ブレークの出力

RS-232C 側にてブレーク信号を検出した場合の処理方法を設定します。

設定範囲は [0 , 1 , 2] です。

値が 0 の場合、LAN 側へのブレーク信号出力は行いません。

値が 1 の場合、RS-232C 受信バッファの後ろにブレーク信号を付加します。その際、RS-232C 側へのフロー制御を行います。

値が 2 の場合、LAN 側へブレーク信号出力後、RS-232C 受信データを LAN 側へ出力します。

RS-232C 受信ブレークの出力が 1 または 2 に設定されていて、次段 (RS-232C 受信ブレーク制御) でバッファクリアが設定されている場合は、バッファクリアした後にブレーク信号を出力します。

RS-232C 受信ブレーク制御

RS-232C 側にてブレーク信号を検出した場合、設定に従って RS-232C のバッファクリアを行います。

設定範囲は [0 , 1 , 2 , 3] です。

値が 0 の場合、バッファクリアなしとなります。

値が 1 の場合、RS-232C 送信バッファをクリアします。

値が 2 の場合、RS-232C 受信バッファをクリアします。

値が 3 の場合、RS-232C 送受信バッファをクリアします。

4. 動作パラメータ設定方法

本製品が動作するときに必要な各種パラメータの設定およびユーザプログラムのダウンロードを、シリアルインタフェースから行う方法、TELNET から行う方法、FTP から行う方法の3種類を用意しています。

動作パラメータの設定およびユーザプログラムのダウンロードを行うには、動作モードスイッチを「7」に設定して「設定モード」で起動します。

4.1 シリアルインタフェースからの設定

本製品のパラメータの設定をシリアルインタフェースから行う場合は、市販のターミナルソフト等を使用します。

本製品とパソコン（以下 PC と記します）を専用のシリアルクロスケーブル（CD/CI 未結線「BL232-9R15」または相当品）で接続し、ターミナルソフトを使用して対話形式で設定を行います。通信パラメータは、「9600bps, 8bit DATA, EVEN Parity, 1 ストップビット, RS/CS フロー制御」固定です。

設定操作の詳細は、「6. 設定メニュー」を参照してください。

本製品の電源再投入またはリセットをすることにより、設定したパラメータが有効になります。

4.2 TELNET からの設定

本製品のパラメータの設定を TELNET クライアントから行う場合は、すでに設定されている「自 IP アドレス」を用いて設定します。

TELNET でログインしたあと、対話形式で設定を行います。設定操作の詳細は、「6. 設定メニュー」を参照してください。

本製品の電源再投入またはリセットをすることにより、設定したパラメータが有効になります。ログイン時の「ユーザ名」、「パスワード」は、動作パラメータ、標準設定にある「ユーザ名」、「パスワード」の設定値が有効になります。初期値は、設定されていない為、ともに「Enter」を入力することで「トップメニュー」が表示されます。

4.3 FTP からの設定

本製品のパラメータの設定を FTP クライアントから行う場合は、すでに設定されている「自 IP アドレス」を用いて設定します。

FTP クライアントからのコマンドで動作パラメータの設定、ユーザプログラムのダウンロードを行うことができます。

本製品の電源再投入またはリセットをすることにより、設定したパラメータが有効になります。

FTP クライアントからのパラメータの設定方法

- 1) FTP クライアントから自 IP アドレスを入力してオープンします。
- 2) リモートファイル名 [blc100.cfg] で GET します。
- 3) 変更するパラメータを書き換えます。
- 4) リモートファイル名 [blc100.cfg] で PUT します。
- 5) FTP クライアントからクローズします。

以下に操作の一例を示します。

```
ftp>open 192.168.200.254          —————>
220 BLC-100 FTP server version x.xx ready.
User (192.168.200.254:(none)): Enter      リターンキーを押します。
230 User logged in.

ftp>get blc100.cfg                —————>
200 Port set okay.
150 File status okay; about to open data connection.
226 Closing data connection, file transfer successful.
```

[blc100.cfg] をエディタなどで編集 —————>

```
ftp>put blc100.cfg                —————>
200 Port set okay.
150 File status okay; about to open data connection.
226 Closing data connection, file transfer successful.

ftp>close                          —————>
221 FTP service closing control connection.
```

FTP による設定ファイルは以下のフォーマットになっています。

```
BLC-100(VX.XX): MAC Address = 00:A0:C2:XX:XX:XX
11 Own IP = 192.168.200.254
12 Own Port = 257
13 Dest IP = 2.2.2.2
14 Dest Port = 514
15 Gateway = 2.2.2.2
16 Subnet = 255.255.255.0
17 Connect Timer = 2
18 Client Connect = 1
19 Keep Alive Timer = 0
1A User Name = ''
1B Password = ''
1C File Terminator = [0, 00, 00]
1D BOOTP = 0
1E DHCP = 0
21 Baud Rate = 9600
22 DataLen = 8
23 Parity = N
24 StopBit = 1
25 Flow = 0
26 Record Terminator = [0, 00, 00]
31 Program1 = ''
32 Program2 = ''
33 Program3 = ''
34 Program4 = ''
35 Program5 = ''
3H LAN Default = 'SockSv'
3J RS Default= 'Serial'
```



```
411 SD Buff Size = 1
412 SD Flow TimerH = 0
413 SD Flow TimerS = 0
414 RD Buff Size = 1
415 RD Flow TimerH = 0
416 RD Flow TimerS = 0
421 RS In Control = 0
422 RS In Select = 0
423 RS Out Control = 0
424 CS In Control = 0
425 CS Out Control = 0
431 ER Reset = 0
432 ER In Control = 0
433 ER In Select = 0
434 ER Out Control = 0
435 DR Reset = 0
436 DR In Control = 0
437 DR Out Control = 0
438 CD Out Control = 0
439 CI Out Control = 0
441 Flow Out Select = 3
442 Flow Out Control = 0
443 Flow CS Select = 2
444 Flow In Select = 0
445 Flow Timing = 1
446 Xon Code = 17
447 Xoff Code = 19
451 Break Lan Select = 0
452 Break Lan Control = 0
453 Break Rs Select = 0
454 Break Rs Control = 0
455 Break Len = 1
```

アルファベットの大文字、小文字の区別をしています。必ず上記の文字列を使用してください。
ファイル中のスペースコード()を削除したり2文字以上にしないでください。

5. ダウンロード方法

本製品は個別に作成したユーザプログラムを内部に読み込んで専用機として運用することができます。本章ではこのダウンロード（読み込む）方法について説明します。

ダウンロードには大きく分けて FTP クライアントからダウンロードする方法と、シリアルインタフェースからダウンロードする方法の 2 種類があります。TELNET からのダウンロードはできません。

なお、ダウンロード可能なファイルは「モトローラ S」形式のファイルのみです。

5.1 FTP クライアントからのダウンロード

FTP クライアントからファイルをダウンロードします。

- 1) モードスイッチを「7」(設定モード)に設定します。
- 2) 本製品の電源を再投入するか、リセットを行います。
- 3) FTP クライアントからリモートファイル名 [XXXXX.mot] で PUT します。
- 4) ダウンロード結果を LIST コマンドで確認します。
- 5) 動作パラメータの起動プログラム 1～5 のいずれかにプログラム名を設定します。

5.2 シリアルインタフェースからのダウンロード

市販のターミナルソフトのテキスト送信機能により、シリアルインタフェースからファイルをダウンロードします。

- 1) PC および本製品の電源が入っていないことを確認して、PC を専用のシリアルクロスケーブルで接続します。
- 2) PC の電源を投入し、ターミナルソフトを起動します。
- 3) モードスイッチを「7」(設定モード)に設定します。
- 4) 本製品の電源を投入します。
- 5) メニューにそってダウンロードを実行します。
- 6) 動作パラメータの起動プログラム 1～5 のいずれかにプログラム名を設定します。
- 7) 電源を切ってからケーブルを外します。

6. 設定メニュー

本製品の動作パラメータの設定をシリアルインタフェースまたは TELNET から行う場合、ターミナル画面に表示されるメニューに従って操作します。

6.1 操作方法

- 1) メニュー画面では各メニュー項目についている数字またはアルファベットを入力してリターンキーを押すことで次に進みます。
- 2) 入力した文字はバックスペースキー（「BS」または「BackSpace」）で戻ることができます。
- 3) 項目値の設定時は、値を直接入力します。選択肢が表示される項目はそれぞれの項目についている番号を入力してリターンキーを押して確定します。

6.2 トップメニュー

シリアルインタフェースから設定を行う場合、本装置の電源投入またはリセットを行うと以下の画面を表示します。

```
Select Group
1 = LAN    2 = RS-232C  3 = System  4 = Terminal  7 = Parameter File
8 = Download  9 = Program List  Z = Initialize
```

TELNET から設定を行う場合、ログインすると以下の画面を表示します。

```
Select Group
1 = LAN    2 = RS-232C  3 = System  4 = Terminal  9 = Program List
Z = Initialize  0 = Quit
```

各項目の意味は以下のとおりです。

- LAN
[1 Enter] 入力 LAN 設定メニュー（6.3 参照）を表示します。
- RS-232C
[2 Enter] 入力 シリアル設定メニュー（6.4 参照）を表示します。
- System
[3 Enter] 入力 システム設定メニュー（6.5 参照）を表示します。
- Terminal
[4 Enter] 入力 端末設定メニュー（6.6 参照）を表示します。
- Parameter File
[7 Enter] 入力 設定ファイルメニュー（6.7 参照）を表示します。
この項目は TELNET からの設定では表示されません。
- Download
[8 Enter] 入力 ユーザプログラムのダウンロード（6.8 参照）を行います。
この項目は TELNET からの設定では表示されません。
- Program List
[9 Enter] 入力 ダウンロードされているユーザプログラムと組み込み済みのシステムプログラムの一覧（6.9 参照）を表示します。
- Initialize
[Z Enter] 入力 全設定値の初期化を行い、リポートします。
- Quit
[0 Enter] 入力 ログアウトし、TELNET の接続を切断します。
この項目はシリアルインタフェースからの設定では表示されません。

6.3 LAN 設定メニュー

```
Select Item
1 = 11 Own IP    2 = 12 Own Port    3 = 13 Dest IP    4 = 14 Dest Port
5 = 15 Gateway  6 = 16 Subnet    7 = 17 Connect Timer
8 = 18 Client Connect  9 = 19 Keep Alive Timer  A = 1A User Name
B = 1B Password  C = 1C File Terminator  D = 1D BOOTP  E = 1E DHCP
F = 1F Auto Negotiation  L = List All  0 = Quit
```

各項目の意味は以下のとおりです。

- Own IP
[1] 入力 自IPアドレスの設定値を表示、変更します。
- Own Port
[2] 入力 自ポート番号の設定値を表示、変更します。
- Dest IP
[3] 入力 宛先IPアドレスの設定値を表示、変更します。
- Dest Port
[4] 入力 宛先ポート番号の設定値を表示、変更します。
- Gateway
[5] 入力 デフォルトゲートウェイの設定値を表示、変更します。
- Subnet
[6] 入力 サブネットマスクの設定値を表示、変更します。
- Connect Timer
[7] 入力 コネクトタイマの設定値を表示、変更します。
- Client Connect
[8] 入力 クライアント接続契機の設定値を表示、変更します。
- Keep Alive Timer
[9] 入力 無通信監視タイマの設定値を表示、変更します。
- User Name
[A] 入力 ユーザ名の設定値を表示、変更します。
- Password
[B] 入力 パスワードの設定値を表示、変更します。
- File Terminator
[C] 入力 ファイルターミネータの設定値を表示、変更します。
- BOOTP
[D] 入力 BOOTP設定の設定値を表示、変更します。
- DHCP
[E] 入力 DHCP設定の設定値を表示、変更します。
- Auto Negotiation
[F] 入力 オートネゴシエーション設定の設定値を表示、変更します。
- List All
[L] 入力 LAN 設定の全ての設定値を表示します。
- Quit
[0] 入力 トップメニューに戻ります。

自 IP アドレスの設定値の表示・変更

11 Own IP = 192.168.200.254
New Value =

新しい自 IP アドレスを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

自ポート番号の設定値の表示・変更

12 Own Port = 257
New Value (between 0 and 65535) =

新しい自ポート番号を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

宛先 IP アドレスの設定値の表示・変更

13 Dest IP = 2.2.2.2
New Value =

新しい宛先 IP アドレスを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

宛先ポート番号の設定値の表示・変更

14 Dest Port = 514
New Value (between 0 and 65535) =

新しい宛先ポート番号を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

デフォルトゲートウェイの設定値の表示・変更

15 Gateway = 2.2.2.2
New Value =

新しいデフォルトゲートウェイを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

サブネットマスクの設定値の表示・変更

16 Subnet = 255.255.255.0
New Value =

新しいサブネットマスクを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

コネクトタイマの設定値の表示・変更

```
17 Connect Timer = 2
New Value (between 2 and 120) =
```

新しいコネクトタイマを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

クライアント接続契機の設定値の表示・変更

```
18 Client Connect = MANUAL
Select New Value
0 = MANUAL    1 = AUTO
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

無通信監視タイマの設定値の表示・変更

```
19 Keep Alive Timer = 0
New Value (between 0 and 120) =
```

新しい無通信監視タイマを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

ユーザ名の設定値の表示・変更

```
1A User Name = ''
New Value =
```

新しいユーザ名を入力し、リターンキーを押すと確定します。`Space` + `Enter` と入力した場合、《ユーザ名 = なし》の設定になります。何も入力せずにリターンキーを押すとメニューに戻ります。ユーザ名の長さは半角 15 文字以内です。それより長い部分は無視します。

パスワードの設定値の表示・変更

```
1B Password = ''
New Value =
```

新しいパスワードを入力し、リターンキーを押すと確定します。`Space` + `Enter` と入力した場合、《パスワード = なし》の設定になります。何も入力せずにリターンキーを押すとメニューに戻ります。パスワードの長さは半角 15 文字以内です。それより長い部分は無視します。

ファイルターミネータの設定値の表示・変更

```
1C File Terminator = [0,00,00]
New Value =
```

新しいファイルターミネータを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

ファイルターミネータを《なし》に設定する場合、「0

ファイルターミネータを1文字設定する場合、「1,XX

ファイルターミネータを2文字設定する場合、「2,XX,XX

BOOTP 設定の設定値の表示・変更

```
1D BOOTP = DISABLE
Select New Value
  0 = DISABLE    1 = ENABLE
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

DHCP 設定の設定値の表示・変更

```
1E DHCP = DISABLE
Select New Value
  0 = DISABLE    1 = ENABLE
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

オートネゴシエーション設定の設定値の表示・変更

```
1F Auto Negotiation = AUTO
Select New Value
  0 = AUTO    1 = 100M    2 = 10M
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

6.4 シリアル設定メニュー

```
Select Item
1 = 21 Baud Rate   2 = 22 DataLen   3 = 23 Parity   4 = 24 StopBit
5 = 25 Flow        6 = 26 Record Terminator   L = List All   0 = Quit
```

各項目の意味は以下のとおりです。

- Baud Rate
[1 Enter] 入力 ボーレートの設定値を表示、変更します。
- DataLen
[2 Enter] 入力 データ長の設定値を表示、変更します。
- Parity
[3 Enter] 入力 パリティの設定値を表示、変更します。
- StopBit
[4 Enter] 入力 ストップビット長の設定値を表示、変更します。
- Flow
[5 Enter] 入力 フロー制御の設定値を表示、変更します。
- Record Terminator
[6 Enter] 入力 レコードターミネータの設定値を表示、変更します。
- List All
[L Enter] 入力 シリアル設定の全ての設定値を表示します。
- Quit
[0 Enter] 入力 トップメニューに戻ります。

ボーレートの設定値の表示・変更

```
21 Baud Rate = 115200
Select New Value
0 = 110   1 = 300   2 = 1200   3 = 2400   4 = 4800   5 = 9600   6 = 19200
7 = 38400  8 = 57600  9 = 115200  A = 230400  B = 460800
C = 614400  D = 921600
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

データ長の設定値の表示・変更

```
22 DataLen = 8
New Value (between 7 and 8) =
```

新しいデータ長を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

パリティの設定値の表示・変更

```
23 Parity = None
Select New Value
0 = None 1 = EVEN 2 = ODD
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

ストップビット長の設定値の表示・変更

```
24 StopBit = 1bit
Select New Value
1 = 1bit 2 = 2bit
```

新しいストップビット長を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

フロー制御の設定値の表示・変更

```
25 Flow = None
Select New Value
0 = None 1 = RTS/CTS 2 = Xon/Xoff
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。なお、ここでの RTS/CTS と RS/CS は同じ意味です。

レコードターミネータの設定値の表示・変更

```
26 Record Terminator = [0, 00, 00]
New Value =
```

新しいレコードターミネータを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

レコードターミネータを《なし》に設定する場合、「0 Enter」と入力します。

レコードターミネータを1文字設定する場合、「1,XX Enter」(XXはターミネータ文字の16進コード)と入力します。

レコードターミネータを2文字設定する場合、「2,XX,XX Enter」(XXはターミネータ文字の16進コード)と入力します。

6.5 システム設定メニュー

```
Select Item
1 = 31 Program1   2 = 32 Program2   3 = 33 Program3   4 = 34 Program4
5 = 35 Program5   H = 3H LAN Default   J = 3J RS Default   L = List All
0 = Quit
```

各項目の意味は以下のとおりです。

- Program1
[1] 入力 起動プログラム 1 の設定値を表示、変更します。
- Program2
[2] 入力 起動プログラム 2 の設定値を表示、変更します。
- Program3
[3] 入力 起動プログラム 3 の設定値を表示、変更します。
- Program4
[4] 入力 起動プログラム 4 の設定値を表示、変更します。
- Program5
[5] 入力 起動プログラム 5 の設定値を表示、変更します。
- LAN Default
[H] 入力 LANデフォルトプロトコルの設定値を表示、変更します。
- RS Default
[J] 入力 RSデフォルトプロトコルの設定値を表示、変更します。
- List All
[L] 入力 システム設定の全ての設定値を表示します。
- Quit
[0] 入力 トップメニューに戻ります。

起動プログラム名の設定値の表示・変更

```
31 Program1 = ''
New Value =
```

新しい起動プログラム名を入力し、リターンキーを押すと確定します。 + と入力した場合、《起動プログラム名 = なし》の設定になります。何も入力せずにリターンキーを押すとメニューに戻ります。起動プログラム名の長さは半角 12 文字以内です。それより長い部分は無視します。

Program1 ~ Program5 で同様です。

LAN デフォルトプロトコルの設定値の表示・変更

```
3H LAN Default = 'SockSv'
New Value =
```

新しい LAN デフォルトプロトコルを入力し、リターンキーを押すと確定します。 + と入力した場合、《LAN デフォルトプロトコル = なし》の設定になります。何も入力せずにリターンキーを押すとメニューに戻ります。LAN デフォルトプロトコルの長さは半角 12 文字以内です。それより長い部分は無視します。

RS デフォルトプロトコルの設定値の表示・変更

3J RS Default = 'Serial' New Value =

新しい RS デフォルトプロトコルを入力し、リターンキーを押すと確定します。Space + Enter と入力した場合、《RS デフォルトプロトコル=なし》の設定になります。何も入力せずにリターンキーを押すとメニューに戻ります。RS デフォルトプロトコルの長さは半角 12 文字以内です。それより長い部分は無視します。

6.6 端末設定メニュー

```
Select Item
1 = Buffer   2 = RS,CS   3 = ER,DR,CD,CI   4 = SoftFlow   5 = Break
L = List All 0 = Quit
```

項目の意味は以下のとおりです。

- Buffer
[1] 入力 バッファ制御の設定値を表示、変更します。
(6.6.1 参照)
- RS,CS
[2] 入力 RS,CS 制御の設定値を表示、変更します。
(6.6.2 参照)
- ER,DR,CD,CI
[3] 入力 ER,DR,CD,CI の設定値を表示、変更します。
(6.6.3 参照)
- SoftFlow
[4] 入力 ソフトウェアフロー制御の設定値を表示、変更します。
(6.6.4 参照)
- Break
[5] 入力 ブレーク信号制御の設定値を表示、変更します。
(6.6.5 参照)
- List All
[L] 入力 端末設定の全ての設定値を表示します。
- Quit
[0] 入力 トップメニューに戻ります。

6.6.1 バッファ制御の設定値の表示・変更

```
Select Item
1 = 411 SD Buff Size    2 = 412 SD Flow TimerH    3 = 413 SD Flow TimerS
4 = 414 RD Buff Size    5 = 415 RD Flow TimerH    6 = 416 RD Flow TimerS
0 = Quit
```

項目の意味は以下のとおりです。

- SD Buff Size
[1 Enter] 入力 送信バッファ容量の設定値を表示、変更します。
- SD Flow TimerH
[2 Enter] 入力 送信バッファハードフロータイマの設定値を表示、変更します。
- SD Flow TimerS
[3 Enter] 入力 送信バッファソフトフロータイマの設定値を表示、変更します。
- RD Buff Size
[4 Enter] 入力 受信バッファ容量の設定値を表示、変更します。
- RD Flow TimerH
[5 Enter] 入力 受信バッファハードフロータイマの設定値を表示、変更します。
- RD Flow TimerS
[6 Enter] 入力 受信バッファソフトフロータイマの設定値を表示、変更します。
- Quit
[0 Enter] 入力 端末設定メニューに戻ります。

送信バッファ容量の設定値の表示・変更

```
411 SD Buff Size = 32kbyte
Select New Value
0 = 1byte    1 = 32kbyte
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

送信バッファハードフロータイマの設定値の表示・変更

```
412 SD Flow TimerH = 0
New Value (between 0 and 255) =
```

新しい送信バッファハードフロータイマを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

送信バッファソフトフロータイマの設定値の表示・変更

```
413 SD Flow TimerS = 0
New Value (between 0 and 255) =
```

新しい送信バッファソフトフロータイマを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

受信バッファ容量の設定値の表示・変更

```
414 RD Buff Size = 32kbyte
Select New Value
0 = 1byte 1 = 32kbyte
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

受信バッファハードフロータイマの設定値の表示・変更

```
415 RD Flow TimerH = 0
New Value (between 0 and 255) =
```

新しい受信バッファハードフロータイマを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

受信バッファソフトフロータイマの設定値の表示・変更

```
416 RD Flow TimerS = 0
New Value (between 0 and 255) =
```

新しい受信バッファソフトフロータイマを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

6.6.2 RS、CS 制御の設定値の表示・変更

```
Select Item
1 = 421 RS In Control    2 = 422 RS In Select    3 = 423 RS Out Control
4 = 424 CS In Control    5 = 425 CS Out Control    0 = Quit
```

項目の意味は以下のとおりです。

- RS In Control
[1] 入力 **RS LAN I/F制御 1 の設定値を表示、変更**します。
- RS In Select
[2] 入力 **RS LAN I/F制御 2 の設定値を表示、変更**します。
- RS Out Control
[3] 入力 **RS RS-232C I/F制御の設定値を表示、変更**します。
- CS In Control
[4] 入力 **CS RS-232C I/F制御の設定値を表示、変更**します。
- CS Out Control
[5] 入力 **CS LAN I/F制御の設定値を表示、変更**します。
- Quit
[0] 入力 端末設定メニューに戻ります。

RS LAN I/F 制御 1 の設定値の表示・変更

```
421 RS In Control = DISABLE
Select New Value
0 = DISABLE    1 = ENABLE
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

RS LAN I/F 制御 2 の設定値の表示・変更

```
422 RS In Select = RcvData
Select New Value
0 = RcvData    1 = LanSts    2 = both
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

RS RS-232C I/F 制御の設定値の表示・変更

```
423 RS Out Control = RcvData
Select New Value
0 = RcvData 1 = Flow 2 = both 3 = fixON
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

CS RS-232C I/F 制御の設定値の表示・変更

```
424 CS In Control = RcvData
Select New Value
0 = RcvData 1 = Flow 2 = both
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

CS LAN I/F 制御の設定値の表示・変更

```
425 CS Out Control = RcvData
Select New Value
0 = RcvData 1 = Flow 2 = both 3 = fixON
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

6.6.3 ER、DR、CD、CI 制御の設定値の表示・変更

```
Select Item
1 = 431 ER Reset      2 = 432 ER In Control   3 = 433 ER In Select
4 = 434 ER Out Control 5 = 435 DR Reset      6 = 436 DR In Control
7 = 437 DR Out Control 8 = 438 CD Out Control   9 = 439 CI Out Control
0 = Quit
```

項目の意味は以下のとおりです。

- ER Reset
[1] 入力 ERハードリセットの設定値を表示、変更します。
- ER In Control
[2] 入力 ER LAN I/F制御 1 の設定値を表示、変更します。
- ER In Select
[3] 入力 ER LAN I/F制御 2 の設定値を表示、変更します。
- ER Out Control
[4] 入力 ER 232C I/F制御の設定値を表示、変更します。
- DR Reset
[5] 入力 DRハードリセットの設定値を表示、変更します。
- DR In Control
[6] 入力 DR 232C I/F制御の設定値を表示、変更します。
- DR Out Control
[7] 入力 DR LAN I/F制御の設定値を表示、変更します。
- CD Out Control
[8] 入力 CD 出力の設定値を表示、変更します。
- CI Out Control
[9] 入力 CI 出力の設定値を表示、変更します。
- Quit
[0] 入力 端末設定メニューに戻ります。

ER ハードリセットの設定値の表示・変更

```
431 ER Reset = DISABLE
Select New Value
0 = DISABLE 1 = ENABLE
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

ER LAN I/F 制御 1 の設定値の表示・変更

```
432 ER In Control = None
Select New Value
0 = None 1 = TxBuffClear 2 = RxBuffClear 3 = both
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

ER LAN I/F 制御 2 の設定値の表示・変更

```
433 ER In Select = RcvData
Select New Value
0 = RcvData 1 = LanSts 2 = both
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

ER RS-232C I/F 制御の設定値の表示・変更

```
434 ER Out Control = RcvData
Select New Value
0 = RcvData 1 = fixON
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

DR ハードリセットの設定値の表示・変更

```
435 DR Reset = DISABLE
Select New Value
0 = DISABLE 1 = ENABLE
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

DR RS-232C I/F 制御の設定値の表示・変更

```
436 DR In Control = None
Select New Value
0 = None 1 = TxBuffClear 2 = RxBuffClear 3 = both
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

DR LAN I/F 制御の設定値の表示・変更

```
437 DR Out Control = RcvData
Select New Value
0 = RcvData 1 = fixON
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

CD 出力の設定値の表示・変更

```
438 CD Out Control = InData
Select New Value
0 = InData 1 = LanSts 2 = fixON 3 = both
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

CI 出力の設定値の表示・変更

```
439 CI Out Control = InData
Select New Value
0 = InData 1 = fixOFF 2 = LanSts
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

6.6.4 ソフトウェアフロー制御の設定値の表示・変更

```
Select Item
1 = 441 Flow Out Select    2 = 442 Flow Out Control    3 = 443 Flow CS Select
4 = 444 Flow In Select     5 = 445 Flow Timing      6 = 446 Xon Code
7 = 447 Xoff Code         0 = Quit
```

項目の意味は以下のとおりです。

- Flow Out Select
[1 Enter] 入力 フロー出力制御の設定値を表示、変更します。
- Flow Out Control
[2 Enter] 入力 フローコード出力の設定値を表示、変更します。
- Flow CS Select
[3 Enter] 入力 CS ON/OFF制御元選択の設定値を表示、変更します。
- Flow In Select
[4 Enter] 入力 フローコードデータ処理の設定値を表示、変更します。
- Flow Timing
[5 Enter] 入力 フロー処理の設定値を表示、変更します。
- Xon Code
[6 Enter] 入力 XONコードの設定値を表示、変更します。
- Xoff Code
[7 Enter] 入力 XOFFコードの設定値を表示、変更します。
- Quit
[0 Enter] 入力 端末設定メニューに戻ります。

フロー出力制御の設定値の表示・変更

```
441 Flow Out Select = fixON
Select New Value
0 = RsData    1 = RxBuffSts    2 = both    3 = fixON
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

フローコード出力の設定値の表示・変更

```
442 Flow Out Contorl = First
Select New Value
0 = First    1 = Last
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

CS ON/OFF 制御元選択の設定値の表示・変更

```
443 Flow CS Select = Signal
Select New Value
0 = FlowCode 1 = both 2 = Signal
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

フローコードデータ処理の設定値の表示・変更

```
444 Flow In Select = Data
Select New Value
0 = Data 1 = Destroy
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

フロー処理の設定値の表示・変更

```
445 Flow Timing = First
Select New Value
0 = Later 1 = First
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

XON コードの設定値の表示・変更

```
446 Xon Code = 17
New Value (between 0 and 255) =
```

新しい XON コードを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

XOFF コードの設定値の表示・変更

```
447 Xoff Code = 19
New Value (between 0 and 255) =
```

新しい XOFF コードを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

6.6.5 ブレーク信号制御の設定値の表示・変更

```
Select Item
1 = 451 Break Lan Select    2 = 452 Break Lan Control
3 = 453 Break Rs Select    4 = 454 Break Rs Control    5 = 455 Break Len
0 = Quit
```

項目の意味は以下のとおりです。

- Break Lan Select
[1 Enter] 入力 LAN受信ブレークの出力の設定値を表示、変更します。
- Break Lan Control
[2 Enter] 入力 LAN受信ブレーク制御の設定値を表示、変更します。
- Break Rs Select
[3 Enter] 入力 RS-232C受信ブレークの出力の設定値を表示、変更します。
- Break Rs Control
[4 Enter] 入力 RS-232C受信ブレーク制御の設定値を表示、変更します。
- Break Len
[5 Enter] 入力 出力ブレーク長の設定値を表示、変更します。
- Quit
[0 Enter] 入力 端末設定メニューに戻ります。

LAN 受信ブレークの出力の設定値の表示・変更

```
451 Break Lan Select = Destroy
Select New Value
0 = Destroy    1 = Last    2 = First
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

LAN 受信ブレーク制御の設定値の表示・変更

```
452 Break Lan Control = None
Select New Value
0 = None    1 = TxBuffClear    2 = RxBuffClear    3 = both
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

RS-232C 受信ブレークの出力の設定値の表示・変更

```
453 Break Rs Select = Destroy
Select New Value
0 = Destroy 1 = Last 2 = First
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

RS-232C 受信ブレーク制御の設定値の表示・変更

```
454 Break Rs Control = None
Select New Value
0 = None 1 = TxBuffClear 2 = RxBuffClear 3 = both
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

出力ブレーク長の設定値の表示・変更

```
455 Break Len = 1
New Value (between 1 and 255) =
```

新しい出力ブレーク長を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

6.7 設定ファイルメニュー

```
Select Item  
1 = Put Parameter   2 = Get Parameter   0 = Quit
```

各項目の意味は以下のとおりです。

- Put Parameter

[1 Enter] 入力 設定ファイルのダウンロード待ちになります。
ターミナルソフトの「テキスト送信機能」(機能の名称はターミナルソフトにより異なります)を使用して設定ファイルを送信します。
設定ファイルのフォーマットは「4.3 FTP からの設定」の設定ファイルと同じです。
正常に設定が行われると、以下のメッセージを表示します。

```
Download Successfully Completed  
Select Item  
1 = Put Parameter   2 = Get Parameter   0 = Quit
```

設定ファイルにエラーがあった場合、以下のメッセージを表示しますので、設定ファイルの内容を確認してください。

```
Download Stopped by Error  
Select Item  
1 = Put Parameter   2 = Get Parameter   0 = Quit
```

- Get Parameter

[2 Enter] 入力 設定ファイルの内容を表示します。
[2 Enter]と入力する前にターミナルソフトの「ログ記録機能」(機能の名称はターミナルソフトにより異なります)を使用して、受信内容をファイルに保存するようにします。設定ファイルの内容に続いて設定ファイルメニューが表示されましたら、「ログの記録」を停止します。

記録したファイルを以下のように編集します。

- 記録したファイルの先頭行が、
「BLC-100(VX.XX): MAC Address = 00:A0:C2:XX:XX:XX」
となるようにします。
- 記録したファイルの終わりにある設定メニューの行を削除します。

- Quit

[0 Enter] 入力 トップメニューに戻ります。

6.8 プログラムダウンロード

ターミナルソフトの画面に「Program Download Ready」と表示されます。ここで、ターミナルソフトの「テキスト送信機能」(機能の名称はターミナルソフトにより異なります)を使用して「モトローラS」形式のプログラムファイルを送信します。

!注意!

- ・ダウンロードしたプログラムはそのままでは動作しません。プログラム一覧で表示されるプログラム名を、システム設定の起動プログラムに設定してください。

6.9 プログラム一覧

以下のようなプログラム一覧を表示します。

-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	FtpSv
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	RmtSetup
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	Setup
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	SockSv
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	SockCl
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	BLC-100
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	Serial
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	TelnetSv

プログラム名です。この名称を起動プログラムに設定します。

7. 注意事項・制限事項

- ・本製品は「設定モード」で起動すると、シリアルインタフェース、TELNET、FTP のどこからでも設定できますが、これらのインタフェースには優先順位があります。優先順位の高いインタフェースから設定が行われている間は、優先順位の低いインタフェースからは値の参照のみが可能となり、書き換えを伴う操作はできなくなります。インタフェースの優先順位は以下の通りです。

<高>

<低>

FTP

>

TELNET

>

シリアルインタフェース

8. シリアルクロスケーブル接続について

シリアルインタフェースからの設定を行う際に、PC 間に接続する RS-232C ケーブルは、専用のクロスケーブル(BL232-9R15 または、相当品)をご使用下さい。

設定する側の機器 (PC/ソフト) 等によっては、CD が有効になっていないと正常に動作しない場合があります。(CD 検出を無効、DR-CD 間をショート等の処置を行うことにより、正常に動作する場合があります。)

アフターサービスについて

保証書

添付しておりますので、内容をご確認の上大切に保存して下さい。

保証期間……………お買い上げ日から1年間

ユーザ登録

製品添付のユーザ登録用紙を FAX（または郵送）でご返送下さい。

ユーザサポートについて

本製品に関するユーザサポートの対象者は下記の通りと致します。

- * 本ユーザサポートは正規にユーザ登録された方のみを対象とさせていただきます。
本製品に関するユーザサポートの対象は以下の通りと致します。
- * 本ユーザサポートは本製品に関するお問い合わせのみを対象とさせていただきます。
- * 本ユーザサポートでは、本製品とパソコン・その他の機器との相性等のご質問に対してはお答えできない場合がございます。
本製品に関するユーザサポートの料金は以下の通りと致します。
- * ユーザ登録後（登録受付の翌日より起算）1 年間は無料。
- * ユーザ登録後（登録受付の翌日より起算）1 年間経過後は有料。
…内容、料金等に関しましては別途お打ち合わせとさせていただきます。

ユーザサポートについて

受付時間 月曜日～金曜日 午前10時～正午、午後1時～午後5時

土曜日、日曜日、祝祭日、および弊社特別休業日はお休みとさせていただきます。

E-mail: miechan-us@bits.co.jp

FAX : 03-3779-2198

電話 : 03-3779-2191

修理

修理を依頼される時は、お買い上げの販売店又は弊社までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ時は、下記情報が必要となります。

- ・ ご住所、貴社名、部署名、お名前、電話番号、FAX 番号
- ・ 製品名、製造番号（底面に記載） お買い上げ日
- ・ 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）

製品に付属品を必要とする場合は、必ず製品に添付して下さい。

保証期間内の場合

保証書の規定に従って無償修理を致します。保証書を必ずご提示下さい。

* 落下、水没等不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。

保証期間が過ぎている場合

ご希望により有料で修理をさせていただきます。

販売終了より5年以上経過したものは、修理対応できない場合もございます。



〒141-0031

東京都品川区西五反田8丁目8番20号 レナウン本社ビル8階

TEL : 03-3779-2190

FAX : 03-3779-2198

E-mail : miechan@bits.co.jp

ホームページ : <http://miechan.jp>